

テーマ：逆流しない経腸栄養チューブ

■ 背景

- ・ 嚥下機能低下や、口・喉の手術後など様々な理由で口から食事が摂取出来ない患者さんへ栄養を補給する方法として、経腸栄養法がある。これは鼻などからチューブへ消化管へ差し込み、栄養液を投与する方法である。胃ろうや腸ろうに比較して容易に施行することが可能であり、安定して栄養摂取が出来る。
- ・ 栄養剤は腹圧などによってチューブを逆流することがあり、胃液と栄養剤が混ざることによってチューブが詰まることがある。栄養剤が詰まるとチューブを交換しなくてはならず、看護師の手間と時間がかかる。
- ・ 栄養剤が逆流しない構造のチューブを求めています。



<出典：看護roo!>

■ 現在の対応方法

- ・ チューブが詰まる度に交換せざるを得ないため、以下の方法などで対応。
- ①一度に大量に入れず、ゆっくり入れると逆流は予防可能だが、栄養摂取の完了までに長時間を要する。
 - ②胃内を減圧する。
 - ③半固形化栄養剤への変更も考えられるが、逆流防止効果は余りないという報告もある。

■ 現状の栄養チューブ

機能アイデア例

- ・ 逆流防止機能
- ・ 後付けできる逆流防止コネクタ
- ・ つまりを簡単に解消できる機能



■ 市場性

腸を使う経腸栄養療法は退院率や死亡率の点で経静栄養療法より優れることが報告されており、この治療法は増加傾向にある。経腸栄養療法は介護療養病床の45%、医療療養病床の34%で実施されている。

米国での経腸栄養装置市場は37億ドル(2021年)と推定されており、今後6年で1.5倍へ成長が見込まれている。国内市場も社会の高齢化に伴い増加すると予想される。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>